

2021(令和3)年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

評価基準

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

■ 中期計画 2021(令和3)年度の単年度目標

I. 利用者ニーズ起点による既存事業の安定経営

【グループホーム】(1) 「世話人・GH担当職員の支援技術向上」：評価【 A 】

グループホーム(以下 GH)の充実を目的として、世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、GHに所属する利用者(31名)と各担当職員を交え、GHの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。その中で、社内規程の改訂及び服薬、体調確認方法の改善を行い、日常のフォロー体制・健康管理の強化に繋げた。

【グループホーム】(2) 「利用者の重度・高齢化対策」と「利用ニーズの増加」への対応：評価【 S 】

『2つ目の包括型グループホームの検討』については、『利用希望者のニーズ聞き取り・空き部屋状況・将来の利用予測』の分析を行った結果、2023年度から検討に入ることが望ましいとの結論に至る。また、9つ目のGH建設(女性専用2棟目)計画案も、同様に分析・検討した結果、2025年度以降になると結論づけた。

【入所施設】「入所棟新設に伴う土地買収と建物新設」：評価【 B 】

土地買収については現在 仲介業者に依頼中である。また、シミュレーションについては今年度 実施出来なかった。次年度に実施するとともに、打開策を練る予定である。

【就労継続支援B型】「新規の作業・商品・利用者の開拓」：評価【 A 】

① 新規事業の開拓と販路拡大・新商品の開発

新規事業について情報収集を行い、地域清掃の事業化を検討中である。
また、その他の新商品開発について定期的に検討会議を行った。

② 作業の質の向上

作業専用育成シートの活用、育成担当者との協議によるシート活用100%達成と、シート内容の微修正を行うなど今年度の目標は達成できた。

③ 機械化による高効率化

各作業班の機械化を検討し、機械化リストを作成。今年度は蔬菜班の機械化を実施。また、リストに基づきR4年度の予算化を行った。

④ 新規利用者獲得

チラシを作成し、事業説明会などで配布し認知度向上を図った。

【生活介護】「利用者の重度・高齢化に合わせた支援やプログラムの提供」

: 評価【 A 】

① 先進的な他施設の訪問計画及び、情報収集

他施設見学を実施、得られた情報を元に「利用者による活動の選択」と「個人目標達成シート」を10月より開始。利用者も積極的に取り組んでいる。来年度も活動の選択は継続、目標達成シートについては各人のADLの目標とも関連させることでより充実した支援に繋げていく予定。

② 介護プログラムの確立：音楽療法カリキュラムの知識・技術伝承

今年度は外部から音楽療法士を招いて月に2回活動を実施。活動の内容を踏まえてR4年度以降にどのような形で音楽療法を取り入れていくか、計画の素案を立案した。

③ 新規創作作品の開発・販売

ネットを始めとした各種媒体からの情報収集を行いつつ、日々の活動の中からどのようなことができ、どんな能力を持っているのかを洗い出す能力開発に取り組んだ。来年度も「利用者の感性を活かした作品づくり」のコンセプトの下に試作に取り組み、販売作品の決定を目指す。

【就労移行】「認知度向上・就労移行カリキュラムの充実・就労機会の確保」

: 評価【 B 】

① 就労移行事業のアピール強化による新規利用者の獲得

就労移行専用のパンフレットを作成し、病院2か所、ハローワークを訪問し、認知度向上を図った。しかし、新規利用者の獲得には至らなかった。

② 就労カリキュラムと就労支援員の育成

コロナ禍において計画通りには事業所見学ができなかったが、来年度の訪問計画は立案済。また、就労カリキュラムは修正を行った。就労支援員は研修などを通じて他事業所との関係構築を深めた。

③ 実習先の確保と就労先への定期的な訪問

実習先の情報収集は行ったが、実習先の選定まで至らなかった。既存の就労先には定期訪問、連絡を関係の構築を計画通りに行えた。

II. 人が育つ組織づくり

(1) 「職員定着プロジェクト」の立ち上げ：評価【 A 】

① 組織風土診断や定着者・退職者の分析

旭センターグループでは、全職員を対象に組織風土診断を今年度初めて行った。来年度以降、職員の満足要因・不満足因子を分析した上で、効果的な具体策を検討する。

② 管理職と職員の対話促進

旭センターグループ・あさひが丘グループの幹部職員に対して、対話力向上研修を実施。研修を受けて終了ではなく、学んだことを部下との面談で実践し、うまくいったこと・うまくいかなかったことを持ち寄り、振り返りの機会（フォロー研修）を2回実施した。

(2) 「ONE TEAMプロジェクト」の立ち上げ：評価【 B 】

① 職員同士の対話を促進

職員間の対話促進については、当初の予定を大きく変更。職員間の対話を円滑に進めるファシリテーターの存在が必要ではないかと考え、ファシリテーター一要請の研修やサポート施策を検討し、R4年度以降本格的に進めていく。

② 役職ごとの役割定義策定と職員への浸透

現状の等級・役職制度の現状分析と今後の改定の方角性を検討。現在の等級制度・役職制度にどのような問題点があるのかを整理した。その上で、今後どのような改定の方角性が考えられるのかを検討した。

Ⅲ. 計画的な新規事業の創造

(1) ネット販売プロジェクトチームの立ち上げ：評価【 A 】

まずは基礎知識としてモール型 EC サイトと独自店舗型の EC サイトなど、特徴に違いがあることをメンバー間で共有し、その中でも特に今年度はモール型 EC サイトについて基礎知識を深掘りし、そのサイト特性や活用する企業側のメリット・デメリットを学ぶことができた。次年度は独自店舗型を深掘りする計画である。

(2) 新店舗立ち上げプロジェクト：評価【 A 】

元々は老舗料理店であった店舗が閉店したことを受け、今後、障害福祉サービス B 型事業で同店舗を間借りして事業を開始予定。現在調整中である。

■ 2021(令和3)年度 各委員会・作業班 事業報告

(各委員会：重点目標に対する事業報告)

委員会名	2021 年度 重点目標	2021 年度 事業報告
支 援	・職員の個別支援計画作成に関する知識、技術の向上	・新人職員対象の個別支援説明は漏れなく実施できた。委員会メンバーの役割も明確化することで委員会としての機能も今後向上していくと思われる。ただ、職員全体のスキルアップとしては具体的な対策を打ち出すことが出来なかった。
生 活	・役割分担及び居室チェック表に基づいた生活環境の改善	・居室整理の日や居室整理の強化週間を設定し、居室の清掃・確認を徹底することで各居室の美化に繋がった。それぞれの役割を責任持って果たすことが出来た。
作 業	・育成シートの適切な運用と職員理解度の浸透 ・各作業班製販計画の達	・作業専用育成シートに関して、全作業班スケジュール通り実施することが出来た。また対象職員の理解度も深まってきている。

	成	<ul style="list-style-type: none"> ・製販計画の達成率は、目標金額に対して 97%の結果となる。来年度も就労支援原価明細書の活用や製販会議を通して各作業班でコスト意識を高め、製販計画の達成を目指す。
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・各バザーのフロー表に基づいた計画の実行とフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度参加を予定していた行事等は新型コロナウイルスの影響で中止が相次いだ。7月のヘラカブフェスタと3月の農福マルシェは特に問題なく無事開催することが出来た。
事 務	<ul style="list-style-type: none"> ・事務業務の円滑な遂行と効率化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署との連携、事務内での連携等推進しながら事務の効率化へ繋げていく事を推進したが他部署との連携意識には改善の余地あり。今後更に他部署との連携を図り 情報共有の意識向上を進めていく。
炊 事	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズへの対応 ・作業全体の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の食事量・形態について、例年実施している嗜好調査に加え、日々の食事の様子や職員からの情報を元に臨機応変に対応することが出来た。
職場改善①	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員へのフォローアップ体制の継続と研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員へのフォローアップ体制を基に確実な実施ができた。 研修は実施日が遅れたが、職員が抱えている問題内容にするなど戸惑いの解消や資質向上に繋がる内容で実施できた。
職場改善②	<ul style="list-style-type: none"> ・年間目標の確実な実施 ・職員育成体制の充実 ・職員必携の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき常に周知を行い、確実な実施が行えた。 育成についてチューターと作業責任者同席で面談を行い、情報共有が出来た。 ・職員必携の理解度を深めるために朝礼での朗読、レポートの提出を計画的に実施し、今後も継続していく。
人権擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の徹底 ・効果的な研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストや利用者ヒアリング等の活動を確実に実施し、結果について速やかに共有した。 また、前年度の外部講師研修で学んだ内容を今年度の社内研修でも活かし、人権侵害防止の意識向上に繋げることが出来た。
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との深い関わりの継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・班会や地域清掃に参加し、地域の方との交流を図り、関係作りの構築を図った。

行事 A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全を確保した行事計画の早期立案 ・明確な役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大の状況を踏まえキャンプは中止。代替企画としてカフェNODOKAでの食事会を実施した。また、新年会は実施直前にまん延防止等重点措置が適用され中止となった。来年度はコロナ禍において安全を最大限に考慮した利用者楽しめるキャンプ等の行事を実施する。
行事 B	<ul style="list-style-type: none"> ・決まり事の周知と徹底 ・行事優先度の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、一日旅行や外出の実施を見送った。代替として、入所・GH旅行と合同によるぼんぼりでの夜の食事会を計画しており、次年度実施に向けて検討中である。
行事 C	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のフローの再確認及び早期計画 ・早期周知の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画していた行事は計画の変更や規模の縮小などを必要としたが、安全面に配慮した対策を行い、開催することができた。来期も早期計画、実施を心がけ、メンバー間の情報共有を徹底しより良い行事にしていけるよう目指す。
入所・GH旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも楽しめる企画の立案 ・早期計画の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で楽しめる企画として、貸し切りで水族見学を検討していたが、実施月に蔓延防止法が適用となり中止となった。代替として行事Bと合同でぼんぼりでの食事会を検討中である。餅つき大会もコロナの影響で中止となった。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく確実な実行と情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施、楓・NODOKAの情報をSNS・ホームページにて更新し、発信することができた。またメンバーで情報共有し、余実管理を徹底して行うことができた。SNSに関しては集客につながる媒体として、さらにより良いものとなるようにデータに基づき分析を引き続き行いSNSのレベルアップに努める。
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・有給休暇の推進 ・連続休暇取得(4日)の推進と確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・有給休暇の取得については、平均 11.1 日となり R2 年度とほぼ同様の実績となった。 ・連続休暇取得(4日)の推進については、全職員が2回以上取得することが達成できた。来期も職場環境を整える取組みを推進したい。

(各作業班：重点目標に対する事業報告)

作業班名	2021 年度 重点目標	2021 年度事業報告
NODOKA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集客率アップ ・ 接客サービス向上 ・ 料理開発 	<p>売上を達成。コロナ禍が続いた中、感染防止の対策をその都度対応し問題なく接客スタッフが対応できるよう情報共有した。又、新メニュー開発(テイクアウト等)を早期計画、実行に移すことができた。これからもお客様へ魅力を感じられるような取り組みをしていきたい。</p>
楓 (菓子班)	<p>人材育成、協力体制の確立、新規事業開拓(移動販売)</p>	<p>計画に対し未達(達成率 97.6%)。コロナ禍でイベント関係が中止となったことが売上未達成の主な原因であったが、年間計画に沿って新商品提供や、8月から月 1 回楓の日(イベント)を開催し、集客率アップに繋げる取り組みが出来たことは良かった。今後も楓のブランド力強化及び SNS 等の宣伝を積極的に行っていく。</p>
竹 工	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成 ・ 職員間の連携 ・ 利用者の適材適所推進 	<p>育成シートは職員 3 名に対して予定通り進められた。職員間の連携としては、毎朝の朝礼を導入したことや利用者状況表の午前中確認を徹底したことで情報共有が図れた。利用者の適材適所は、利用者 1 名がメンテナンスに本格的に参加し、新たな戦力となっている。</p>
蔬 菜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力体制の確立 ・ 人材育成 ・ 地域住民との交流 	<p>売上を達成した。育成シートにより対象職員の作業技術定着が確認出来ている。利用者・職員の畑周辺の清掃意識も向上している。昨年と同様にイベントの自粛・縮小が続いたが、収穫体験等 新たな試みを実施し、売上確保にも繋がった。来年度も個々の技術面、支援面でのレベルアップを図っていく。</p>
メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育成シートと OJT を活用した人材育成 ・ 新規利用者の確保 	<p>下半期に新規顧客が増えた一方で昨年同様コロナ禍により作業中止や延期が相次ぎ売上は未達。人材育成に関しては OJT を行いながら紙モップ、水モップ等の通常作業のスキルアップに取り組んだ。育成面では育成シートを用いての苦手な作業やスキルの把握が不十分に終わる。次年度の最重要課題として取り組んでいく。</p>
陶 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材発掘と育成 	<p>売上計画に対し未達成となる。官公庁、窯元</p>

	(絵付作業)	含めた営業活動や黒薩摩の手造り商品の開発が計画的に行うことが出来なかった。絵付けの練習は四ヵ年計画に基づき、計画通り行えた。次年度は計画的な営業と手造り商品の製作に取り組む。
施設外就労	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援の強化 ・関係機関との連携強化 	一部施設外就労先が契約終了となった為、売上計画に対し76.2%の結果となったが、施設外就労先と各職員の関係性作りについては良好な関係を構築し、業務を円滑に進めることが出来た。また、利用者支援に関しては、利用者情報の共有及び、各職員の支援スキル向上に努めた。
味噌	生産、行事等への早期計画	売上は未達成。要因の一つとして、機械の老朽化や人員不足で計画通り作業が出来ず、生産が遅れてしまったことによる在庫不足が挙げられる。次年度は育成を重点に置き、生産体制と在庫管理を徹底していく。

2021年度 達成額

作業班	2021 計画	2021 年度 達成額	達成率
蔬菜	4,480,000	4,760,000	106.2%
楓 (菓子班)	17,650,000	17,230,000	97.6%
NODOKA	7,410,000	7,820,000	105.5%
メンテナンス	22,800,000	22,350,000	98%
竹工	4,000,000	3,910,000	97.7%
陶芸	1,200,000	700,000	58.3%
施設外就労	5,230,000	3,990,000	76.2%
味噌	1,450,000	1,370,000	94.4%
その他	—	100,000	—
合計	64,220,000	62,230,000	97%

(* 下4桁切り捨て)

* 年度別 達成額一覧

作業班	2017 達成額	2018 達成額	2019 達成額	2020 達成額
蔬 菜	4,230,000	4,620,000	4,060,000	4,280,000
楓 (菓子)	16,180,000	17,250,000	17,440,000	16,410,000
NODOKA	6,770,000	7,150,000	7,870,000	7,640,000
メンテナンス	21,060,000	21,800,000	22,510,000	21,910,000
竹 工	4,320,000	3,750,000	3,170,000	2,870,000
陶 芸	920,000	970,000	1,590,000	680,000
施設外就労	—	1,300,000	5,070,000	5,170,000
味 噌	1,320,000	1,400,000	1,370,000	1,430,000
その他	1,200,000	1,200,000	1,000,000	150,000
合 計	56,020,000	59,420,000	64,080,000	60,540,000

(* 下 4 桁切り捨て)

各サービス別の月額平均工賃

		R2年度	R3年度
旭福祉センター	生活介護	5,863	5,459
	就労継続B	25,454	26,229
第二旭福祉センター	就労移行	9,952	20,977
	就労継続B	25,405	25,674
全 体 平 均		18,442	19,701
一般就労者平均		83,604(6名)	87,405(6名)

※参考：B型全国平均工賃 15,776円 (R2年度実績)

(その他)

職員研修の充実

令和3年度は、施設内において年間8回(新人・中堅・人権擁護・清掃メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、社会性・道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についてもコロナ禍であるが、オンライン研修等も含め、計44回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

福祉教育

令和3年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ・ 保育士実習 1名 (1校)
- ・ 特別支援学校現場実習 21名 (5校)
- ・ 福祉学習 90名(対象:川上小4年生)